

青森の明るくアクティブな「土木女子」たち!

もっともっと  
挑戦  
したい

# 造ったものが地域を彩る、 土木の仕事が好き!

#46  
YOKO SEITO

清藤陽子

土木現場監督

株式会社鹿内組 土木部。青森県立青森工業高等学校 インテリア科卒業。販売員を経験後、土木作業員・ダンプ運転手を経て、2級土木施工管理技士の資格を取得。現在、鹿内組の現場監督。平成29年12月1級土木施工管理技士の資格を取得。

DATA

株式会社 鹿内組  
青森県青森市大字野尻字今田97-1  
tel. 017-738-2301  
http://www.shikanai.jp/

## がんばりは、誰かが見ていてくれる!

青森を拠点に、土木、建築、管工事から公共施設の維持管理まで行う株式会社鹿内組。130人もの従業員の中で、数少ない女性の現場監督として活躍しているのが清藤陽子さんです。

「子供の頃、近所に女子がいなかったので男子とばかり遊んでいました」と話す清藤さん。高校を卒業後、一時は販売店に勤めたが、トラックドライバーが活躍する映画にあこがれていたことを覚えていた親戚の紹介でダンプカーの運転手に。大型車のハンドルを握り工事現場で土砂を運搬しながら穴を掘ったり、コンクリートの打設作業を行うなど土木作業員としても汗をかき、資格を取って現場監督に。

数年後、下請けとして鹿内組の仕事をしていたとき、担当の男性現場監督から「うちに来てその力を発揮してみないか」と誘われ4年前に入社。

「実は私、シングルマザーなんです。仕事と子育てに奮闘している姿を見て声をかけてくれたのだと考えています。がんばってれば誰かがちゃんと見てくれるものだなあと思い本当に嬉しかったです」と当時を振り返る。

## 人に喜んでもらえる素敵な仕事

鹿内組での最初の仕事は、斜面が崩れないよう保護するための法面工事。「作業員は斜面の頂上に親綱を結び、腰に安全帯をつけて高所作業を行うのですが、カッコいいけどとにかく怖い。絶対ケガしないで!と願いながらの毎日でした」

このほか、新青森県総合運動公園の整備工事や道路工事を経て、現在は青森市内で山の斜面が崩れないための工事を担当中。現場にいるのは9人。高所作業が多いので転落、墜落防止に努めるとともに地山の安全点検を徹底している。

「現場監督の仕事で大変だと感じたことはないですね。何でもやってみたい性格だし、この仕事が好きです。落ち込んだときは一晩寝れば何とかかなるさと考えるようにしています。私たちの造ったものは形になり未来に残ります。造ったものが地域生活の支えになります。地元の方々に“よくやったね”と声をかけていただいたときは、すごくうれしかったです。心底この仕事に就いて良かったと思いました」

現場内の構造物等が、目標としている規格で施工されているのか、日々の管理を怠らない清藤さん



## 良好なチームワークで後輩も育てたい!

また、女だからって甘やかされたことは一度もなかったと話す清藤さん。「もともと作業員からのスタートなので、自分で直接手がけたい作業もあります。日中の外での作業の後に書類整理等を行えば定時に帰れないこともあります。でも、忙しすぎる時は仲間や先輩にお願いしています。そうすれば「よしわかった。だから無理するなって言っただろう」とみんなが協力してくれます。社内のチームワークもバッチリです」

がんばり屋の清藤さんですが、休日には高校生の娘さんと、パスタやラーメンの食べ歩きをしたり、青森市の一万トン岸壁で釣りを楽しみ、潮風のマイナススイオンを感じている。そして今、最もハマっているのは、スマートフォンのゲーム。「休憩時間に仕事仲間と攻略情報を交換したり、何気ないやりとりで緊張感が緩みぬ感じがいいんです」とニコリ。

「鹿内組は誰にでも平等にチャンスを与える会社です。これからは、いつでも現場を走り回れるよう心身を鍛え、現場監督に必要な資格の一つでも多く取得したいと考えています。さらに、コスト管理はもちろん、若手オペレーターや作業員の気持ちをくんで後輩を育て、みんなをまとめていきたいですね」と目標を語る清藤さんの目は輝いていた。



ゲームを楽しむ、ゆるい時間

## ひとことメッセージ

株式会社 鹿内組 鹿内雄二 社長



我々の女性従業員はみんな真面目です。書類の作成等においても細かいところまで配慮が行き届き確実な仕事をしてくれます。また、女性建設技術者が配属された現場の雰囲気は明るく和やかでチームワークもよく順調に工事が進んでいます。我々は「男だから…、女だから…」ではなく、創業当初から社員同士の信頼関係がありアットホームな雰囲気の中でのびのびと仕事に取り組んでもらっています。道路や橋、港湾、トンネルなどそれぞれに我々造り手の想いが込められ、そして地元へ愛され次の世代に引き継がれます。地域の建設業は、地域の暮らしを支えるとてもやりがいのある職業だと思っています。